

新年度の風景

埼玉県戸田市 栗原ハツ江（78歳）

暖かくなり、今年も新年度がスタートした。街に出ると、新しいスーツに身を包み希望に満ちあふれた新社会人を時折見掛ける。また、少し大きめの制服に袖を通し、早足で通学する姿もある。どちらも、一目でそれと分かる。一週間もすると、スーツも制服も体になじんで自分のものになるから不思議である。

出会った皆さんに、心の中で「おめでとうございます」と言っている自分がいる。

かわいい園児だった子が、黄色いカバールの付いたランドセルを背負い、一生懸命に歩いて登校。先を行く班長が時々後ろを振り返ってゆつくり歩いているのが分かり、優しさが伝わる。昔と違い、今はランドセルもとてもカラフル。同じランドセルなのに、大きくも小さくも見えて、六年間の成長に感動する。子どもたちと一緒に学校へ行き、先生に勉強を教わって、お昼になったらおいしい給食を食べたい。かなわない夢とは分かっているけど、想像するだけで楽しい。

週一回、下校時の児童見守りに参加しているが、帰りは朝と違ってみんなリラックスしていて、マスク越しに笑顔が見られる。元氣な子どもに出会って活力をもらおうと、もう一度子ども時代に帰って、思い切り走ったり体を動かしたりしたいと思うこともある。いつまで見守りに参加できるか分からないが、自分自身の健康のためにも続けたいと思っている。

人生に往復はない

兵庫県淡路市 石坂満男（78歳）

シルバー人材センターで活動するためには、心身共に健康であることが最大の条件です。各種の活動に対してやりがいを持って楽しんで働き、生涯現役で社会とのつながりを持つことは大切な要素だと思います。

これまで得た経験や人脈を、若い人に伝えていく強い使命感を持つことも大事です。

高齢になると家に閉じこもることが多くなり、その結果、生き生きと生活する力が失われます。生涯現役でいるためには、自ら一歩出て、積極的に人とつながりを持ち、コミ

ュニティーの中の一人となって刺激を受けながら人と触れ合うことが大切です。

地域で幅広く行われている百歳体操などに参加し、夢中になれるもの、また興味あるものを探して、自分に合ったセンターからの仕事、ボランティアに積極的に付き合っています。

充実した人生を送る選択肢はいろいろありますが、ちょうど私に合った働ける場所が、シルバー人材センターなのです。ここで出会った多くの人たちのご縁をさらに大切にして、たくさんの方の感謝や反省をして今までを振り返りつつ、コミュニティの一員として、これからも精いっぱい歩んでいきたいと思っています。限りある生とは知れど道遠し。人生は片道で、往復ではありません。平成に続き、令和の道も一歩から、です。

ひな人形 作って飾って

石川県七尾市 近間せつ（84歳）

節分が過ぎると、春を待つと同時にひな祭り心を待ちにします。老いても、待ち遠しい気持ちには変わりません。ひな人形は自分で作

【 短歌 。 俳句 。 川柳 】

短歌

シルバーカー押して歩める愛し姉
半年振りの自力歩行で

●宮古市 太田屋滋

春は来るニオイロウバイ匂う路
元気にシルバー急ぐ仕事場

●松戸市 秋元輝美

春浅し坪庭一樹梅の花

百花に先がけ笑みに初めにけり

●長岡市 近藤 博

老木も季節来たりなば梅花咲かし

コロナ禍と言え目を喜ばす

●甲賀市 中島稔子

また一人きらめく星に仲間入り

夜空を見上げ一粒の涙

●滋賀県多賀町 西臺久子

めじろ鳴く椿の花に寄り添って

吹雪の森は暖かきかな

●愛媛県鬼北町 岸本繁義

俳句

葉を落とし寒風堪えて春うらら

●鹿沼市 大貫秀雄

眠り覚め庭のサンシユ黄金色

●小山市 塚野 京

喪婦りの膝つつみこみ春シヨール

●小山市 原田利江

今はただ風にとらはれ黄水仙

●本庄市 長谷川千鶴子

啓蟄や帽子手袋置き忘れ

●草加市 長谷部禎子

立春の動きだしたる始発バス

●戸田市 篠崎志津子

春浅し膝掛配る通夜の席

●立川市 浅見 眞

コロナ禍に戦の炎曼珠沙華

●武蔵村山市 原野晴光

古い二人小声で叫ぶ福は内

●塩尻市 大家協治

晴やかな声呼び覚ますフキノトウ

●塩尻市 奥原光夫

金メダルスノーボードは雪の中

●塩尻市 小野正平

朴落葉かきり風音ひきりなし

●塩尻市 町田まさ子

露の董二つ並んで背比べ

●可児市 井戸和秋

暗寒の木曾川左岸鵜が笑う

●愛知県扶桑町 千田和之

春一番北向く鴨へカップ挙ぐ

●野洲市 若松能夫

軒氷柱朝日浴びては姿消し

●福知山市 岬尾 充

北京五輪よく頑張った日本勢

●長岡京市 宮先一雄